Preface

巻頭言

科学技術振興機構

情報企画部部長 加藤 治

情報管理 56(1), 001-001, doi: 10.1241/johokanri.56.1 (<http://dx.doi.org/10.1241/johokanri.56.1>)

この4月より「情報管理」編集委員長に就任しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。読者の皆様、執筆や編集等にご協力いただいた皆様方のお陰で、本誌は56年目を迎えることができました。改めて厚く御礼申し上げます。

この4月から、JSTの文献情報提供サービスは、民間による提供が開始されます。1957年（昭和32年）以来、56年間継続してきたJSTの情報事業は新しい局面に入りました。これまでの文献情報サービスを少し回顧させていただきます。

昭和の高度成長期に誕生した旧日本科学技術情報センター（JICST）のミッションは、産業振興等のための科学技術情報の基盤整備でした。サービス上の価値として、品質向上はもちろん、速報性、迅速に内容を把握するための情報加工、検索の効率化等、“スピード”に対する要望が特徴的だった、と思いを巡らせています。つまり、素早い資料収集、日本語抄録による論文内容の紹介、オンラインシステムの構築および科学技術用語シソーラスによる効果的な索引技術の確立などは、“スピード”の要望に応えるものでもありました。

また、研究者・技術者向けのインターフェース（GUI）の搭載や、学術電子ジャーナルプラットフォームJ-STAGEの構築、解析・可視化サービスによる俯瞰等も“スピード”の追求の流れと考えます。そして昨今のICT技術の超高度化は、「ビッグデータ」時代を

もたらし、JSTによる文献情報サービスは、新たな局面を迎えています。

新しいJST情報事業に求められる情報基盤のあり方を、現在、有識者の方々にご議論いただいています。科学技術イノベーションに貢献する持続性のある知識基盤として、多くの異業種・異分野の情報をつなぎ、新しい知が想起・創発される連携プラットフォームの仕組みを探求する方向性が示されています。サービスは官民連携で推進する方向を描いています。

「情報管理」誌はこれまで、JST情報事業の流れを包含しつつ、情報の整備・流通・活用に関する話題をタイムリーに取り上げてきました。今後とも、図書館・情報学的内容から科学技術イノベーション、社会と科学技術の対話コミュニケーションまで、時代の流れを見据えつつ幅広い内容を扱い、読者とともに歩んでいきたいと思えます。

また、本誌は昨年度よりXML化を進めました。このXML化により、多くの情報との統合や、選択的な記事・データ抽出、非テキストデータの登載など、J-STAGEのパイロット誌としてさらなるチャレンジをしていきたいと思えます。

本誌が、各種情報を組み合わせ新たな知の想起・創発を促せるジャーナルへと発展できるよう努力してまいります。引き続きご愛読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。